



揮毫 伊藤茂男氏  
 鎌田地区  
 平成27年9月1日現在  
 世帯数 8,592 戸  
 男 9,728 人  
 女 9,427 人  
 発行所 鎌田地区公民館  
 公民館報編集委員会

### 両島町会で総合防災訓練を実施

両島町会交通防犯防災部長 井内 上

両島町会では去る9月6日に「大地震の警戒宣言発令後、町会災害対策本部を設置、その後両島町会に避難勧告が発令された」との想定のもと防災訓練を行い住民約200名が参加しました。

避難誘導訓練では「迅速な安否確認と避難誘導」をテーマに据えました。本部長(町会長)の指示の下、防災行政無線の屋外拡声スピーカーにて避難勧告発令の緊急放送を行うと共に、両島防災会が避難を呼び掛けながら担当する避難場所へ向かいました。当町会では28ある隣組を10班に分けており、住民はまずその一時避難場所に集合し、「避難状況確認票」を使った安否確認を行いました。本票は事前に記入作成した組毎の世帯名簿で、従来の避難人数確認だ



避難誘導訓練

けでなく、この誰が避難していないのかを迅速に把握できます。各組の避難状況確認票は各班の避難状況確認票に集約され、その後班毎にまとまって班長、組長、防災会が周囲の安全を確認しつつ誘導し西部体育館駐車場へ避難しました。そこでは各班の確認票を4つのブロックごとに集約し本部に報告する、また防災会は避難誘導時に確認した町会内の被災状況を本部に報告するという情報伝達の流れを確認しました。



消火訓練

消火訓練では渚消防署第五分団のご指導の下、消火器の取扱方法、バケツリレーによる初期消火、防災会と第五分団による実放水が行われました。

煙道体験訓練では火災時の煙の恐ろしさを実際に体験いただきました。西部体育館に場所を移しての講演会では「地域の防災力をアップしよう」をテーマに県危機管理部の小松様にお話をいただきました。



煙道体験訓練

給食訓練では炊き出しの豚汁とおにぎりをいただき、終了いたしました。今後は未避難世帯への確認実施の検討や災害弱者への援助方法の検討などの課題を克服し、防災に強いまちづくりを進めていきたいと思っております。最後になりました。

給食訓練



給食訓練

### 街かどのお話 135

#### 町会の活性化に 取り組みたい

昭和町町会  
町会長 永田 正美

の後は表具師として活躍されています。料理は、寿司はもちろんですが、煮物から揚げ物等絶品で、我々町内の者を始め、しばしば鎌田地区の各町会役員さん方の多くがご馳走になったと聞いています。

昭和町町会は、昭和40年に出来たと聞いていますが、現在会員は47軒しかありません。またその内20軒はアパート居住者です。

神社やお寺も無く古い史跡もありません。公民館さえ無いのです。その上老齢化が進み75歳以上の独り住まいの家が5軒あり、このままでは遠からず町会は消滅するのを待つばかりかと苦慮しているところです。

しかしこの小さな町会を何とか明るい住み良い町にしようとする頑張っている方がいます。それは前町会長の飯森二郎さんです。

13年もの長い間町会長として来た、自宅を公民館として提供頂き、町会の為に大変ご尽力頂きました。東京の柳橋と赤坂で腕を磨いた一流の鮎職人です。昭和37年に松本で鮎店を開店しましたが、奥さんを早く亡くされ、50歳の若さで閉店し、そ

現在建築中のアパートもあり、こういった人達が町会へ入会してくれば昭和町も先細りせずに済むのでは、と思っております。今後、方策を練って対応して行きたいと考えています。



## 戦後 70 年

米制空権の下を夜間機動のみで、リングエン湾を目指した。最前線の第 7 連隊は既に米軍と対峙して交戦中で我が 10 連隊はその予備隊

として若干後方にいた。日米の戦車の装備には格段の差があり、こちらの砲弾は撥ね返され、敵の砲弾は貫通する有様。交信と暗号電報の送受の業務は多忙を極めた。

く嬉しかった。通信所は切り立った崖に横穴を掘ったもので、無数の米軍機による爆撃と銃撃の中で通信業務を続けた。陣地の方は逐次侵入され、警備隊の投入、斬り込み隊の編成、後方からの新部隊まで投入するも、間もなく全滅の知らせが入る始末、悲惨だった。道路や河川、宿舎付近に友軍の死体ごろごろしていた。

（実は米軍は 6 月 26 日ルソン島作戦の終了を宣言していたのだ）この山越えは前回の山越えとは比較にならない辛いものだった。峻険な山坂はひどい時には 1 日 2、3 K しか前進出来ず、日中は暑く露営中は寒かった。雨の日は濡れて、降った後の膝まで浸かる行軍は悲惨だ。病人が続々出て、悪性のマラリアで一緒に行動出来ない者は放置される時もあった。行軍途中にその遺体が多かった。もう生きて帰れるとは思っていなかった。8 月に入った。芋畑も掘り尽くされて、山には愈々食糧が欠乏し、芋の葉や野草など何でも食べた。この頃は部隊との交信のほか東京放送の海外放送を傍受するのが仕事だった。で、内地の情勢は良く分かった。硫黄島の玉砕、沖繩戦の終結、ドイツの降伏、原爆投下、ソ連の参戦と、絶望的だった。

米軍による武装解除を受けた。収容所に送られる途中部落を通る度に「家泥棒、水牛泥棒、バカ野郎」と住民の罵詈雑言を浴び、投石まで受けた。

昭和 17 年 12 月 18 歳で少年通信兵として旧満州東安省の戦車第 2 師団・戦車第 10 連隊に配属されたが、南方戦線戦況悪化の為所属する師団が南方への転進となり、19 年 8 月 13 日東安を発ち、門司から大船団を組んでフィリピンルソン島へ向けて出港した。

緒戦の華々しい戦果も東の間ミッドウエー海戦の惨敗後戦況はじり貧の一途を辿りサイパン島を制圧されるに至り、フィリピン戦は本土決戦を引き延ばすため北部山中での持久戦を指向していた。

以後日本軍は敗走に敗走を続けた。途中突如フィリピン人ゲリラに激しい襲撃を受けた。腹部を直撃した弾が衣服を破り横に貫通していた。腹巻は、硝煙で黄色く染まっていた。

8 月 14 日の東京放送は我々には晴天の霹靂だった。帝国にはポツダム宣言を受諾し連合国に和を乞うたのだ。米国の観測機が撤いたビラには、待望の平和再び来る、天皇陛下の命により帝国は連合国と講和を結び、我が軍の砲撃は 14 日以降中止せられた、諸君は速やかに武器を棄てて我が軍の線に来たれ」とあった。

米兵は我々捕虜を優しく扱った。鬼畜米英と教育されてきた我々には涙が出る程有難かった。ロスパスオス収容所での 3 か月は疑心暗鬼に駆られて、どこかに連れて行かれて殺されるのではないかと、薄氷を踏む想いだった。

## 私の戦争体験

征矢野町会

横林

甲子一

以後日本

月中旬によ

うやくサン

タフェを占

領した。

松本駅改札口で懐かしい兄弟姉妹が迎えてくれた。涙が溢れて一言も話せなかった。兄の自転車の後ろに乗って見る懐かしい山川や家並みが涙でかすれていた。征矢野の我が家に着いて、「捕虜になって帰ってき

ました」の涙声に父は「戦争に負けたんだ早く上れ」と言った。私は傍らにいた母の肩を抱いて声をあげて泣いた。昭和 20 年暮れ、21 歳だった。

あれから 70 年の歳月が流れて、戦争体験者も少なくなつた。平和憲法を守り、世界中の全ての国々と共存共栄し、日本が先頭に立って世界平和を推進して欲しい。（取材 柵山輝之）